

# 幽玄

題字  
高秀秀信横浜市長

横浜能楽連盟  
会報 No. 9  
平成7年5月28日

## 「飛躍の年」を目指して

会長 新堀 豊彦



新堀会長

横浜能楽堂（仮称）のオープン（舞台披き）は、平成八年六月と決定いたしております。いよいよ私たち横浜の能楽愛好者にとって歴史的な新時代の到来を迎えることとなります。

したがって、本年（平成七年）はまさにその重要な準備期として、大変大きな意義をもつ一年ということになるのは申すまでもない所です。開設準備につきましても、当連盟が総力をあげて協力して行かなければなりません。同時に愛好者の中核団体として、自らの組織体制をもう一度見なおし、能楽堂がスタートしたあと、実質的な後

援組織、利用者組織として活動し得るよう努力する必要があります。私自身も横浜市内はもとより、神奈川県内での同好の士を出来るだけ鳩合し、当連盟の仲間として参加して頂くように、積極的に取り組んでおりますが、会員の皆様も、それぞれのお立場で是非とも御協力して頂きたいのであります。

本年も、本日開催されます「五流」の謡曲大会、及び秋の「第四十三回横浜能（十一月十一日）」の二つの事業を軸として、「飛躍の年」に備えて参ります。

何卒御支援の程お願い申し上げます。

組織の充実強化、謡曲人口の発掘により、会員の増加をめざすことが、本年最大の課題であることを認識し、前進をはかりたいと存じます。

## 平成六年度 第四十二回横浜能「六浦」と「土蜘蛛」

当連盟主催の平成六年度横浜能は、十一月二十九日横浜市民会館内ホールに千二百席の見所が満席となるお客様を迎えて開催されました。二週間前にすべての観覧券が完売となり、その後のお申込みにお応えできず多くの方々にご迷惑をお掛けしましたが、主催者としては大変嬉しい悲鳴でありました。



宝生英照「六浦」

今回の演目は宝生流若宗家英照師の六浦と金剛流若宗家永謹

師の土蜘蛛の能二番と他四流の仕舞に狂言二人袴の番組としました。六浦は横浜市に現在も地名が残り、また金沢の名利称名寺が物語の舞台でありながら横浜での演能記録がないばかりか、各流共あまり演じていない曲柄のようです。横浜ゆかりのこの曲を伝統ある横浜能で是非とも上

演して市民の皆様にご覧いただきたいものと新堀会長が宝生家に熱心をお願いして実現したものです。

鎌倉が政治の中心であった時代に中納言為相卿が詠んだ歌「いかにしてこの一本にしぐれけん山に先立つ庭のみみじ葉」に取材したこの曲のシテは女性で楓の精であり地味ながらもしつとりとした三番目物で、英照師の序之舞は見所を幽玄の境地へ誘ってくれました。

これに取合せた五番目物の金剛流土蜘蛛は全く対象的な馴染みの曲で、千筋の伝小書によりこれかとはかりの蜘蛛の巣を投げかけ仏倒れなど大きな型で見所を沸せてくれました。舞台から橋掛りへの飛び返る欄干越えが、仮設舞台のせいが見せて貰えなかったのは心残りでありました。

能二番の演者は宗家とあって、日程の厳しい所をお願いしたため、横浜能としては久しぶりに週日（火曜日）で、しかも夜能となり当初は切符の売行きが心

配されましたが、新聞にも取上げられ前述のように大成功を納めて、杞憂に過ぎず誠に幸いです。当日ご来場の皆様および共催の市当局をはじめ後援してくださった関係者に厚く御礼申し上げます。

（連盟常務理事 望月 悦夫）

## 「第四十三回横浜能決まる」

平成七年十一月十一日（土）、市民文化会館内ホール（中区馬車道）において、第四十三回の横浜能が行われることが決定した。

この所四十回記念能を別として、ほぼ定着していた、能（二流二番）、狂言、各流仕舞で一回の上演の形で行われるのはこれで最後となる（四十四回からは新しい本舞台で開催されることになる）。今回は観世「土蜘蛛」（シテ観世宗家清和師）、喜多「花筐」（シテ友枝昭世師）の二番。昨年金剛流若宗家の「土蜘蛛」を拝見したばかりであるが、観世の宗家の「土蜘蛛」もまた大いに期待される。「花筐」の友枝師の油ののった演技も注目される所。狂言及び各流仕舞は例年通り。御協力をお願いいたします。

「謡曲と仕舞のつどい」の記

能楽連盟理事 高橋 利雄

平成六年度宝生流の謡曲と仕舞のつどいが左記により開催されました。詳細は当日の番組表によるも、五十余人の出演者による熱演で、晴天にも恵まれ熱心な観客共々に、延べ百六十余人という大盛會裡に終了することができました。尚、進行よろしきを得て終了時間も予定より早目に十五時三十分には終演、次に記す。

日時 平成七年二月十一日(出)、十二時三十分より十五時三十分場所 横浜市磯子区宮越記念久良岐能舞台  
主催 横浜市久良岐能舞台運営委員会

後援 横浜市・横浜能楽連盟  
内容 先ず二番目物の能についての解説に始まり、各曲毎に概説入りの番組表により素謡五番立て(弓八幡、俊成忠度、胡蝶、富士太鼓、小鍛冶)と仕舞四番(班女、野宮、善知鳥、敦盛)と、終りに草紙洗の舞囃子という番組により行われた。

この「つどい」はご存知の方も多いことと思いますが、五流の各流儀が毎年年間を通して夫々が各月々に開催されているもので、磯子区が主体となっているものです。尚、宝生流は毎年

年度末前の二月に当たっているもので、昨年などは大雪に見舞われての開催となり、その折は流石に観客は二十数人というもので、延べ八十人弱でした。この「つどい」も平成元年より始められて、益々盛會の度を増して

おり、種々の面より斯道への志向する人々も多くなつており、その伸展に大きく期待されるものです。

久良岐能舞台と私

観世流梅若会 水野 力

私が初めて宮越舞台(当時)に出させて戴いた頃は宮越様御夫妻も御健在で、深山幽谷の趣がある庭を散策していると、時折奥のお部屋から笛や太鼓の音が洩れて来て忽ち雅びの世界に誘われたり、又、御夫妻の舞台姿も拝見できたのであった。

あれから何年経つたであろう、舞台は横浜市に寄贈され、建物や庭園の整備が施されて、今は「宮越記念久良岐能舞台」として心地良い環境のもとで数々の催しを楽しませて戴いている。

去る三月五日、同舞台に於て「観世流梅若会謡曲と仕舞のつどい」が催され、私は素謡「善知鳥」のシテを務めさせて戴いた。私の師杉山淑朗先生は当梅若

会の役員であり、その師土田晏士師は斯界に於ける梅若の重鎮である。このような環境の中で稽古をさせて戴いているので「梅若」には特に愛着と親しみを感じているのである。

今回の番組の筆頭には当舞台の教室で高橋則子先生・水野潔先生方の稽古を受けられた生徒さん達の日頃の練習成果の御披露があり、ほほえましく又、頼もしい限りであった。しかも横浜市のお招きにお集まりになられた方々は九十数名に及んだ由、御同慶の至りである。

近頃頼に新能に人氣があり、盛況と聞かすが、通り一遍の興味だけでなく、じっくりと取り組んで古典芸能の素晴らしさを知ってもらいたいと思う。それはやがて底辺の拡大に繋がり、斯道の隆盛をもたすと信ずるからである。

第八十回海謡会報告

海謡会 常任幹事 中島秀次郎

海謡会は久良岐能舞台の寄贈者宮越賢治翁が昭和三十年に第一回を開催されて以来、去る四月九日の会を以て丁度第八十回となりました。

始めは盛大に記念行事をやるうという案も出ていたのですが、御子息の太郎様が病氣御療養中

とのことで自粛ムードとなり、会のテーマを「宮越賢治翁を偲ぶ会」として追悼の意を表することに切り替えました。

宮越翁の御遺徳を讃える浦部会長の挨拶、特に翁と親しくおつき合いし、一緒に芸を磨かれた女性グループの素謡「江口」、井美名蒼師範と広井長老による独鼓「高砂」の追悼演目を中心



御遺族と浦部会長

に所属各会の番組が展開され、出演者は重複を除き、正味百十名の多数にのぼる盛會となりました。

御遺族としては御子息の奥様とお嬢様が遠路千葉よりお越しになり、立派な生花を御寄付下さった上、翁の後継者を目指す私共の演技を長時間にわたって御覧下さいました。

春の日に

喜多流 竹村 洋子

花の季が過ぎてゆく。横浜に能楽堂が生まれる日も近い。神戸に震災があり、東京にサリン事件があり、そして知事選も終わった。様々の事があって、そしていつも心は美しいものへ歎びへと、花が陽に開く様に展げてゆく。この四月の始めに法隆寺で「夢殿」を友枝昭世師が舞われ、お供出来た小笠原さんの帰浜の一声、「あ、先生、若々しかった」の言葉に、先代宗家実師の「夢殿」を演じる師の精力が想われ、遙かに偲ぶことも亦至福なるかなと聊かの負け惜しみ乍ら、土岐善磨の「花を御法の旅の空」に始まる春の讃歌、仏法を説く調べの快さに浸る。お謡とはどうしてこうも名文なのかと常々悩んでいるものだから、駄文を弄するのが辛い。新年の祝扇の小謡が喜多流では土岐善磨から馬場あき子になり、物書く人も歌詠人も能の世界への思い入れは深く、数多の大家の名を愛好者の中に見る。殊に嬉しいのは上村松園のきびしいお稽古ぶりを知ること、こよなく憧れるあの浄らかな画面にその跡が見える様な気がする。健康上の理由で能楽から俳句へ転じた「松本たかし」は眼前に

在す如くに敬慕してやまない俳人にて「たかし」と平仮名の名前が目にとびこんでくると胸がときめく。実、得三の兄、後藤夜半の句も妙に好きで大好き。花に狂うは「桜川」だが、好きこそ物の上手なれから、下手の横好きの私まで狂う幸せを終生大事にしている人は多い。俳句は一度狂うとうまくなると野沢節子は言う。「上手は困る」と言ったのは俳画の飯田九一であった。どちらも金料玉條として私を鞭打つ。愚鈍の私には能は唯仰ぎ見る高嶺の月で、余生の久しからむ事を願う許り。第八号の兵頭さんの「六浦一分かり易く楽しく拝見した。村上氏のお話も」と聞かせて頂きたく、先輩の生の美味しい物の頂ける折が欲しいと思う事切である。八十二才の岡崎益雄氏が、謡曲私考シリーズの手作りの御本を出された。非売品だが関心のある方には読んで頂きたいと思う。書き手の情熱と一途な気持ちに滔々と此方へ向かって来る。御面倒をおかけしている市の方々、新堀会長をはじめ役員・会員の皆様、花冷、芽木の嵐、花粉に注意されてどうぞ佳い日々を。

### 守屋与四巳先生の思い出

金春流春巳会 西田太二郎  
後援会会長

金春流の諸先生方の最高齢者で、流の元老格として日夜芸にご精励なされ、諸行事にも進んで参加され、門弟一同悲嘆の極みであります。思い起こせば昭和二十年代、例会の場に寺の広間を使ったり、会には桜間弓川先生や、本田先生、高瀬先生、梅村先生、野村先生等、皆様守屋先生にご協力出演下されたものです。

当時、東芝川崎の堀川工場厚生課より謡の講師として毎週工場へお見えになり、小生達のご指導を戴きました。

今でも眼前に一番強く残っておりまして、先生の仕舞で嵐山の勇壮なお姿です。横浜にも桜間弓川先生より横浜は守屋にまかすからと言われ、第一回から一度も休まずお勤めなされました。

小生舟弁慶の仕舞で長刀が天井に仕えるので、廊下でお稽古をした事もありました。雛子の練習も大変細かくなされ、高砂の神舞も二生の思い出となつています。

先生還暦のお祝いとして計画されました、卒都婆小町の円熟



「鉢木」 守屋与四巳

されました名人芸は、今でも心の灯火として残っております。また四十二年度には重要無形文化財総合指定を受け、平成三年四月に勲五等双光旭日章を受賞されました。

今日この頃在りし日の先生の思い出が次から次へと浮かび出しまして、胸を締め付けられる思いで一杯でございます。

これからはみんなでご子息の泰利先生をもり立てながら、横浜の金春流の益々の発展をめざしたいと願う次第であります。

### 横浜能楽堂建設に寄せて

観世流 野並 豊

昭和二十六年、今は亡きS氏から誘われたのを機に、観世流の謡曲を習い始めたのが今にして数えれば既に四十数年前、そのまま続けて今日に及んでおれば、少なくとも年数の上でだけは結構古手の中に入れて貰えるのであろうが、そこが素人の悲

しさ、途中何度か中断の期間があり、結局習っていた期間より中断の期間の方が遙かに長く、実質的にはごく数年という事であっては、同好者の中にあっても、あまり威張れた存在ではない。しかし途切れ途切れながら謡曲に親しみ、時には舞台上で、シテとかワキを務めた経験は私にとっては貴重な経験で、又、その間に得た先輩、同輩の顔と共に、なつかしく思い出されて来るのである。

そんな事も縁となつて、この度の横浜能楽堂建設に当っては建設促進会発足の当初から、役員の一員に加えて戴き、横浜市への働きかけに、又、立地が決まっ

てからは設計の検討にも参画させて戴き、更に開館の見通しがついてからは、開館準備委員として、その運営の面にも意見を申し述べる機会を戴いておる事は、私にとって無上の光栄であると共に大きな喜びであります。それと共に、この長い期間の間に、坂本寿さんをはじめ、この能楽堂建設に大変熱心で、その完成を夢みておられた多くの方が、今日既に故人になつておられる事を思うと、その遺された意志実現の為に一層努力し、協力せねばならぬと痛感しております。

時にはその建築現場にも立ち

寄り、その進捗状況を見せて貰っておりますが、又、時にはランドマークタワーの最上階の部屋に上つて市街地を見下ろした時などにも、眼下に先ず目につくのが緑に囲まれた掃部山の一画の能楽堂建設現場であつて、それを見つめてくるだけで、その槌音が聞こえて来るような気持ちになります。

明平成八年六月竣工予定とか是非立派な誇るべき能楽堂を完成し、良き能が演ぜられる事を期待すると共に、文化都市、国際都市を任ずる横浜がこの能楽堂を起点として、日本文化の発信地としての機能を十二分に果たすことを祈る者であります。

### 久良岐能舞台

#### 各流謡曲と仕舞のつどい

平成七年度、久良岐謡曲と仕舞のつどいの日程が決定した。それは市(磯子区)と久良岐能舞台運営委員会主催、一般公募の公式行事で、各流アマチュアの出演で、今回七年目になる。

八月二十七日(日曜) 金剛

九月十日 (日曜) 喜多

九月二十四日(日曜) 金春

十月二十九日(日曜) 観世

平成八年

二月十一日 (日曜) 宝生

三月三日 (日曜) 梅若



皆様とともに

観世流 岡

幸男



私が中学五年のある夏の夜のことであった。父が謡曲

を謡っている傍らで何となく聞いていると、「お前も謡って見なさい」と言われたものである。「いやだ」「何故いやだ」「足が痛いからいやだ」「それじゃあぐらでいいから謡いなさい。私が一句づつ謡うからその通りやって見なさい」と言う様なわけで、有無を言わずやらされることとなった。「今日の修羅の仇は誰ぞ：」御存知屋島のキリである。いやいやながら謡わされたのであるが、想えばそれが父からの最大の遺産となり、五十年を超える私の謡曲生活の始まりとなったのである。

初めは気も進まず、ただたどしい歩みであったが、何曲か稽古をする中に私はいつの間にか曲の中にある不思議な美しさと魅力の中にひき込まれて行った。例えば「くらべ来し振分け髪も肩すぎぬ。君ならずして誰かあぐべき」と言う優しい恋の返歌。お能の安達ヶ原でシテが客僧達の前で糸繰車を廻す。い

つしかその手に力が入って行きすさまじい早さになった時、手を離し、呆然として空間の一点を見つめる。糸繰車は彼女の人生を現し、その手に入った力は悔恨と苦悩を現しているのではないだろうか。それから当麻のシテの一声、「一念弥陀仏即滅無量罪」と説かれたり。「これは何とと言う深い仏教の哲理であり、慰めなのであろうか。二百十数曲の中に謡いあげられた老若貴賤のあらゆる人間模様、それは人間の喜びや悲しみに対する優しい共感であり、素晴らしい人間讃歌である。

誰もが渉らなければならぬ人生の山や河を、私も歩んで来た中で、謡曲と言う慰めを与えられていたことは本当に幸せなことであった。それから、その中で沢山の人達との出会いが私の生活を豊かにしてくれたことは感謝にたえない。約四十年間懇ろにご指導下さった観世鏡之丞師と鏡仙会の方々、横浜で常に私を導き励まして下さった大先達の広井さん、海謡会の浦部会長や竹村さん、また相鉄謡曲部の仲間たち。みんな有難い私の人生の友である。それ等の方々をこの良き交わりの中で、生ある限り楽しみを共にして行きたいと思うのである。

謡曲を習い始めて

久良岐教室 田中 一吉

金剛流の久良岐教室に入れたのは平成五年六月ですが、未だ一年半程しかたっておりません。そんな私に、「幽玄」へ寄稿をとのこと。そこで、まず「幽玄」という言葉の意味を、広辞苑で調べて見ると、「奥深く微妙で、容易にはかり知ることのできないこと」と出ておりました。かけ出しの私など、まだ「幽玄」の世界には程遠いと判り、何かほっとしたような気持ちになりました。私はこの二十二年間、休日といえは近くの体育館に出かけ、ボランティアのバレーボール指導に汗を流すのが日課となっておりました。およそ「幽玄」とはかけはなれた、スポーツの世界に係して、日を送っていたわけですが、六十の手習いで、これまでと全く違った趣味を選んだ私が、謡曲の稽古を続けて来られた理由について考えて見ました。

一つは、久良岐能舞台の素晴らしい環境です。一步門をくぐると、都会の中にあることを忘れてしまうような、静けさがあります。四季折々の自然に囲まれた由緒ある能舞台は、初心者稽古場としては過ぎたるものと言って良いでしょう。

もう一つは、教室で私たちをご指導頂いている熊谷先生のことです。稽古の時に、先生の謡われる朗々としたお声を拝聴しているだけで、心の中が洗われて行くような気になります。海外出張の多い忙しいお仕事を抱えながら、我々初心者に対しても、物語の背景や能との関わりなど丁寧に判りやすく教えて頂き、本当に有難いと思っております。

最後の一つは、教室の皆さんの和気藹々とした雰囲気、チームワークの良さが挙げられます。お陰様で、この二月には横浜金剛会の謡初会で、久良岐の初舞台を踏ませて頂きました。僅かな時間の舞台でしたが、終わった時には外では小雪が舞うほどの寒さにも拘らず、冷汗をびっしょりかいておりました。

会が終わって、参加者の皆さんとご一緒に飲んだビールの旨かったこと、こればかりは、スポーツで熱い汗を流した後と同じように爽やかなものでした。

「平成七年度 定期総会開かる」

四月二十八日(金)開港記念会館において、定期総会が開催された。新堀会長の挨拶、来賓の佐野市民局文化部長の祝辞があり、浦部副会長を議長とし、第一号

横浜能楽連盟 連絡先

●文書(輸送)又はFAXの場合 〒233横浜市港南区丸山台二-291-17新堀方 FAX 〇四五-八四四-二九〇三 ●電話の場合 横浜市役所 〇四五-六七一一二二二 市民局文化事業課 渡辺

議案、六年度活動報告、決算報告、監査報告の承認。第二号議案、七年度活動計画案、予算案を審議、原案通り承認された。第三号議案は役員の一部変更について、渡井蘭子理事(宝生)が常務理事に推薦された承認された。その他の事項として、第四十三回横浜能の実行詳細について(別稿)。会報「幽玄」の原稿募集について。また市文化施設課より、横浜能楽堂の建築進捗状況について報告。さらに、能楽堂開館後の運営方針と第四十四回以降の横浜能開催方針等について、新堀会長より状況報告があった。平成八年六月下旬の舞台披露が内定しているだけに、八年度後半に予定される、第十一回五流合同横浜謡曲大会の開催や、横浜能の段どりがある具体的なにはまだなけれ